



## アクサテクノロジーサービス ジャパンが VMware ESX Serverを利用して、 Windowsサーバ80台のメルボルンへの移設を実現

—— データセンターでもVMwareでサーバを集約、コストを削減

### サーバ集約と本社移転で 1年間に2度のサーバの移設

アクサ生命保険は世界最大級の保険・金融グループAXAの日本法人として設立され、日本の保険・金融市場に強固な基盤を築き、同グループの経営資源を活用して積極的に事業を展開しています。アクサテクノロジーサービスは、AXAグループの全額出資により設立されており、AXAのグループ企業を中心にサービスを提供しITサービスレベルと投資効果の向上を図っています。

2004年12月、アクサ生命の本社移転が決定しました。さらに2005年1月、アクサテクノロジーサービスはアジアパシフィックのサーバインフラを、メルボルンのデータセンターに集約するという決定をくださいました。これにともないアクサテクノロジーサービス ジャパンは、本社移転とデータセンターの統合という二つのITインフラの移転を数ヶ月間のうちに行うことになりました。先に開始したサーバのメルボルンへの集約プロジェクトにおいては、国内で稼働する約300台のサーバが移転対象となりましたが、空輸での移設は容認されず全て現地での新規構築となりました。

「日本での稼働環境をメルボルンで構築し直すのは大変な手間がかかります。本社の移転を控え、メルボルンへのサーバ集約は4ヶ月でおこなわなければならず解決方法を考え途方にくれました」と、アクサテクノロジーサービス ジャパン サービスデリバリ オープンシステムテクニカルサービス シニアシステムエンジニア 富田 勝氏は語ります。その際、サポートがすでに終了しているWindows NTベースのアプリケーションをVMwareソフトウェア上で稼働させていることが、移設方法解決のヒントとなりました。

### VMwareソフトウェアを利用して、 80台のサーバを4ヶ月でメルボルンに移設

2003年からテストや開発環境用でVMwareソフトウェアを使っていた会社では、物理サーバをイメージ化するP2V手法を用いてメルボルンに送る、という方法を選択しました。

「VMware ESX ServerであればWindows NTマシンを動かすことができ、インストールされたイメージがそのまま保持されます。ESX Server以外にはない、という結論になりました」（富田氏）

数度のテストを経て、対象サーバを仮想化されたディスクイメージファイルの形でメルボルンに送ることで、4ヶ月間で80台全ての移設を完了しました。さらに、メルボルンではテスト、開発環境を仮想化させることでデータセンターのコストの抑制を実現しました。アプリケーションに応じてサーバの処理能力を基準に、物理サーバと仮想サーバを振り分け、現在では移設後の追加も含めて、物理サーバ55台とともに、5台の物理サーバ上の65台の仮想マシンが日本向けのサービスを提供しています。

メルボルンへの移設完了後、本社サーバールームの移転作業が始まりました。最初の計画ではサーバのほとんどをメルボルンに移すとされていたため、用意されたサーバ設置のスペースには限りがあり新本社でのサーバ集約も失敗の許されないプロジェクトでした。「サーバは今後もメルボルンへの集約が基本です。しかし、ファイルサーバや特定のプロトコルを使うサーバなど、アーキテクチャ上どうしても移設できないサーバがあります」（富田氏）

メルボルンへの移設の経験から、物理サーバを仮想サーバへ集約する方針が会社としての決定となりました。現在、移設後の追加も合わせて4台の物理サーバ上で66台の仮想マシンと90台の物理サーバの合計156台が稼働しています。

ESX Serverを導入したことで、メルボルンと本社のサーバ設置において物理および仮想サーバの全体で約50%、仮想インフラストラクチャにおいては、9台の物理サーバで131台の仮想サーバを稼働させることにより、約90%のスペース削減を実現しています。



## VMware ESX Serverを標準として、 一層積極的な活用を図る

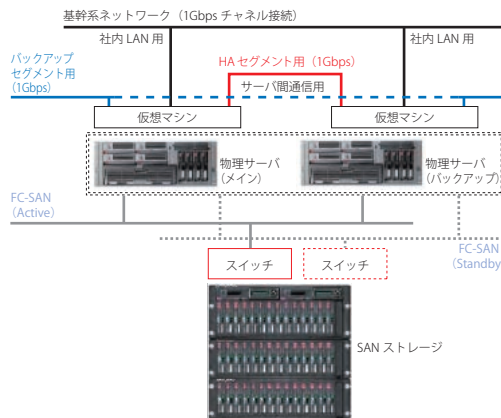
このようにして2度のサーバ移設を完了した会社では、VMwareソフトウェアをさらに積極的に利用していく方針です。今までは国内の通信業者が運営するデータセンタに設置していたサーバをすべてメルボルンと本社に集約しました。

今後も現在使用している物理サーバをESX Serverで統合し、より効率的な運用を進める予定です。2003年、同社のIT部門が初めてVMware製品導入しました。導入当時、仮想化による開発環境の構築はあまり知られていませんでしたが、テストおよび開発用の環境を低コストで迅速に構築できることから社内での認知度が高まりました。そして、サーバのメルボルン移設に大きく貢献したことさらに高い評価を受けることになりました。

「今では、テスト用サーバを仮想マシンで提供して欲しいという声が多々です。通常のプロビジョニングではサーバの発注から納品、テスト環境を構築までに2~3週間ほどかかっていました。VMware ESX Serverを使用することで、サーバのイメージをコピーしてそのまま使えるので半日もあれば準備できます。今ではESX Serverがなければ仕事にならない状態、といっても言い過ぎではありません」(富田氏)

会社では、仮想サーバ環境のVMware Infrastructure 3への移行を計画しています。現在、単独で稼働している仮想サーバを統合し効率的で可用性が高く、さらなるTCO削減を実現するサーバ環境を構築していく予定です。また、VMware Infrastructure 3の新機能を利用して、バックアップ環境も整備も予定しています。「VMwareを知ってから2年余りでここまで浸透したのは驚異的です。アクサテクノロジーサービス全体でもVMwareインフラストラクチャは標準として位置づけられており、グループCIOも仮想化を進めていくと表明しています。ワールドワイドレベルと日本の双方でVMwareソフトウェアを活用してきた経験に、より戦略的に新しい技術を取り込んで使っていこうと考えています。アクサテクノロジーサービス全体で、VMwareソフトウェアが果たす役割はこれからますます大きくなっていくことは間違いありません」(富田氏)

### 構成図



**「VMware製品は使った人全員が、『今までとまったく違う』と実感するソフトウェアです。ワークステーションにしてもサーバにしても利用環境を作り上げるのは大変です。それが短時間で可能になる。本番環境からテスト、開発まで、少しでも効率的にしたいと考える人はまず使ってみてください。効果はとて大きいと思います」**

アクサテクノロジーサービス ジャパン株式会社  
サービスデリバリー オープンシステムテクニカルサービス  
シニアシステムエンジニア 富田 勝氏

[www.vmware.com/jp](http://www.vmware.com/jp)

VMware株式会社 〒150-6018 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー18F  
電話：03-5789-5885 ファックス：03-5789-5757